

教育に関する事務の点検・評価報告書

(令和3年度実施事業)

令和4年9月

白石市教育委員会

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条
第1項の規定により別紙のとおり報告します。

令和4年9月2日

白石市教育委員会

教育長 半 沢 芳 典

令和3年度白石市教育方針と重点取組

白石市教育方針

教育基本法に基づき、本市の幼児・児童・生徒に生きる力（確かな学力・豊かな心・健やかな体）を育成するとともに、一人一人の生涯にわたる学習の充実と家庭や地域社会の教育力の高揚を図り、さらに伝統文化の尊重や誇りをもって生きる市民を育成し、「人と地域が輝き、ともに新しい価値を創造するまち しろいし」の実現を期する。

◎重点取組

基本方向1 夢や志をかなえる力の育成

- ① 全国学力・学習状況調査の平均正答率を全国平均以上にすることを旨とした授業改善と家庭学習指導
- ② 学校・幼稚園の特色や探究の対話（p4c）を生かした教育課程の編成と実施
- ③ 教育課程特例校（英語特区）を生かした英語教育の実施とコミュニケーション力の向上
- ④ SDGs（持続可能な開発目標）を達成しようとする児童生徒を育成するためのESD教育の推進
- ⑤ 1人1台端末（GIGAスクール）環境を生かした授業展開と学習サポート
- ⑥ 英語教育、暗唱活動を取り入れた幼児教育の充実と預かり保育等の保育サービスの実施

基本方向2 豊かな人間性や社会性、健やかな体の育成

- ① 発達の段階と各学校の特色を生かした志教育の実践
- ② 白石市暗唱読本等を活用した読書活動の推進
- ③ 不登校児童生徒の心のケアや学校復帰等を支援する教育支援センターの設立に向けた準備
- ④ 中学校における休日の部活動環境の在り方検討

基本方向3 障がいのある子どもへのきめ細やかな教育の推進

- ① 個の実態に応じた多様な学びの場（通常の学級、通級による指導、特別支援学級等）が選択できる環境の整備
- ② 関係機関やコーディネーターによるサポート体制の充実

基本方向4 信頼され魅力ある教育環境づくり

- ① 学校の適正配置に向けた再編・統廃合等の検討
- ② 白石市立小中学校情報セキュリティ対策基準の遵守徹底
- ③ 児童生徒の安全安心確保のための防災計画の充実と防災教育の実施
- ④ 市民のニーズに応える図書館サービスの実施

基本方向5 生涯にわたって成長するための学習・スポーツの支援

- ① 生涯学習事業の推進と共同学習の支援
- ② 地域の特色を生かした公民館事業の支援と地区公民館職員の研修機会等の充実
- ③ 「総合型地域スポーツクラブ」創設に向けての検討

基本方向6 地域みんなで未来を担う子どもを育む

- ① 地域学校協働活動の理解を図り、地域からの参画を促進する
- ② ジュニア・リーダーの育成と活用の推進

基本方向7 歴史遺産・伝統文化の継承と活用の推進

- ① 歴史遺産・伝統文化の記録化と情報発信の推進
- ② 博物館の早期建設に向けた資料収集、資料整理、教育普及活動の実施
- ③ 文化芸術団体・文化財関連団体の育成と活動支援

令和3年度 白石市教育施策

学校教育の充実

1 創意ある教育課程の編成と実施による「特色ある学校づくり」の推進

(1) 創意ある教育課程の編成

- 市内の特色や2学期制の利点を生かし、各学校の実態に即した教育課程の編成と実施に努める。
- 小・中学校の接続を意識した年間指導計画の作成に努める。
- 探究の対話（p4c）を生かした教育課程の編成に努める。
- 児童・生徒に求められる資質・能力を地域社会と共有し、社会に開かれた教育課程の編成に努める。
- 1人1台端末環境を有効に活用した教育活動の実施に努める。

(2) 志教育の推進

- 教育活動のさまざまな場面で、人間として、社会人として、市民としての在り方や生き方、そして誇りを考えさせる場を意識的に設定する。
- 児童・生徒の能力・適性を多面的に把握し、適切な進路指導を進める。
- 発達段階に応じた勤労観や社会性を身に付けさせ、自らの生き方について主体的に探求していく力を伸ばす。

(3) 学習指導の充実

- 児童・生徒の個性や能力及び適性等を重視した学ぶ側に立つ授業づくりに努める。
- 児童・生徒に基礎的・基本的な知識・技能を習得させるとともに、主体的・対話的で深い学びを育む授業づくりに努める。
- 「学力向上マネジメント支援事業」に則り、児童・生徒の学力向上を図る。
- 学力・学習状況調査等を踏まえ、その課題を明確にして学習指導に生かす。
- 今日的な課題や地域、児童・生徒の実態を踏まえ、育てたい力を明確にした総合的な学習の時間の改善に努める。
- 教育課程特例校（英語特区）の指定を受け、本市独自の教育課程を生かした英語教育の充実を図る。
- 中学校区を単位とした小・中学校協働による授業づくりをとおして、知的好奇心を高め、学習意欲の高揚を図る。
- 課題意識をもって計画的・継続的に家庭学習に取り組むことができるように発達段階に応じた指導の工夫を図る。

(4) 学校体育・学校保健の充実

- 生涯にわたり健康で活力ある生活が送れるよう、健康の保持増進と体力・運動能力の向上を図る。
- 感染症等の情報に敏速に対応し、感染防止と罹患者への適切な指導に努める。

(5) 学校給食の充実と食育の推進

- 地場産品を食材とした学校給食の充実を図り、安全で安心な給食を提供する。
- 衛生管理水準の向上に努め、施設の整備や維持管理に取り組む。

- 栄養教諭・栄養職員による、学校給食をとおした指導を行い、食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けさせる。
- 「食物アレルギー対応ガイドライン」に基づき、食物アレルギーを正しく理解し、学校全体で共通理解を図り、適切な対応を行う。

(6) 国際理解教育、姉妹都市交流の推進

- 外国語指導助手(ALT)の効果的活用や小・中学校及び高等学校との効果的連携をとおして、児童・生徒に国際的な視野と感覚及び英語による実践的コミュニケーション力を身に付けさせる。
- 国内外姉妹都市等との児童・生徒交流活動の推進を図り、相互理解と友好を深める。

(7) 情報教育の推進

- 発達段階に応じて、言語能力、情報活用能力(情報を主体的に収集・判断・処理・編集・創造・表現し、発信・伝達できる能力)、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を教科横断的に育成する。
- 情報活用能力を、各教科の特質に応じて適切な学習場面で育成する。
- 各教科において、コンピュータやインターネット等の情報手段を主体的に活用し、プログラミング的思考、情報モラル、情報セキュリティ、統計等に関する資質・能力の育成を図る。

(8) 環境教育の推進

- 省エネルギー活動やリサイクル活動、自然愛護などの実践を計画的に行い、よりよい環境づくりに取り組む態度の育成に努める。
- 太陽光発電システムを利用して、省エネルギー、省CO₂の効果や仕組み等を体感させ、環境教育の推進を図る。
- 持続可能な開発のための教育(ESD)の実践に努める。

(9) 福祉・人権教育の推進

- 全教職員の共通理解のもとに福祉・人権教育推進のための校内体制を充実させ、家庭や地域との連携を図る。
- 共生や福祉の心の大切さを理解させ、特別活動等をとおして態度や実践力の育成に努める。

(10) 文字・活字文化の振興

- 活字に触れる機会を増やし、児童・生徒の活字文化の理解と読書活動の推進を図る。

(11) ふるさと教育の推進

- 地域の文化財や史跡等を学ぶ活動をとおして、積極的に市内外の文化や伝統に親しむ児童・生徒を育てる。
- 学校教育の活動全体をとおして、白石市と地元地区を知り、ふるさとを愛し、その発展に寄与する児童・生徒を育てる。

(12) 小規模校の充実

- 小原小・中学校においては小中一貫校のメリットを生かし、特色ある教育活動を展開する。
- 自然豊かな小規模校において、きめ細やかな個別指導による学力向上を図るとともに、地域の特色を生かした活動による豊かな人間性を養う。

(13) 特別支援教育の充実

- 就学先を決定するにあたっては、就学相談等とおして様々な情報提供を行い、実態に応じた適切な就学指導に努める。
- 保、幼、小、中、支援校の連携をとおして支援の充実に努める。
- 特別支援教育コーディネーターを核として他の機関との連携のもと、相談活動をとおして特別な支援を必要とする児童・生徒の理解を深めるとともに、「すこやかファイル」の啓発と活用に努める。
- 障がいの種類や程度に応じた合理的配慮に努め、「個別の指導計画」及び「個別の教育支援計画」の作成と実践、並びに教育のユニバーサルデザイン化を推進し、児童・生徒のさまざまな教育的ニーズに対応する。
- 障がいのある児童・生徒と障がいのない児童・生徒が共に学ぶ場や自らの可能性を最大限に伸ばすことのできる学びの場など、多様な学びの場の充実に努める。

(14) 幼児教育の充実

- 一人一人の幼児が伸び伸びと活動し、豊かな体験が得られる環境をとおして行う教育に努め、幼児期の特性に応じた指導を推進する。
- 幼児を取り巻く環境の変化を踏まえ、家庭や地域と連携しながら集団活動の中で基本的な生活習慣の形成を図り、集団活動の中で善悪の判断を身に付けさせることにより、生きる力の基礎となる社会性や道徳性の芽生えを培う。
- 周囲の環境（物的環境、人的環境、自然環境）に主体的にかかわる体験をとおして、心豊かな幼児の育成を図る。
- 市内共通のアプローチカリキュラム及びスタートカリキュラムにより、保幼小相互の円滑な接続を図る。
- 預かり保育の実施により、園児の心身の健全な発達を図るとともに保護者の子育てを支援する。

2 豊かな人間性を育む「心の教育」の推進

(1) 道徳教育の推進

- 「特別の教科 道徳」において、多面的・多角的に深く考えたり、議論したりする授業展開の工夫に努める。
- 探究の対話（p4c）の理念を取り入れた授業により、安心をベースとした対話ができるようにする。
- 自然とのふれあいや社会奉仕、福祉などの豊かな体験活動を積極的に取り入れる。
- 美しいものや崇高なものに感動し、真・善・美に触れることのできる多様な体験活動を推進する。

(2) 生徒指導の充実

- 積極的な生徒指導をもとにした、問題行動や不登校等の未然防止に努める。
- 教師と児童・生徒との心の通い合う人間関係をつくり、共感的な指導に努める。
- 信頼関係の構築を基盤とした指導に努める。
- 善悪の判断を、機会を逃さず、適切かつ確実に指導する。
- 不登校やいじめ、その他の問題行動の早期発見に努め、家庭、地域や関係諸機関との連携を図りながら、全教職員が一体となって指導に当たる。
- 児童・生徒の悩みや不安の早期発見に努め、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、心のケアハウススーパーバイザー並びに関係諸機関との連携を密にした相談・支援体制を充実させる。

(3) 情報モラルの育成

- 地域・家庭・学校が一体となって児童・生徒を「ネット犯罪」から守るために、地域・家庭等に対して、ネットを通じた有害情報や対策等について、様々な機会を通して啓発を図る。
- 児童・生徒の発達段階及び情報機器の活用に応じて、情報社会で適正な活動を行うための基となる考え方と態度を、各教科の指導の中で情報活用能力の学習と合わせて指導する。

3 学校・家庭・地域が連携した「開かれた学校づくり」の推進

(1) 学校経営の充実

- 保護者や地域住民に対して学校の教育目標や方針などを説明しながら理解と協力を得、学校及び地域の自然・文化・人材を活かした学校づくりに努める。

(2) 家庭教育の充実

- 「白石市子どもを育てるヒント集（小学校編・中学校編）」の活用、「家庭の日」や「ノーテレビ・ノーゲームデー」の促進、「青少年健全育成市民のつどい」への参加の奨励を図り、家庭教育の在り方に関する学習の機会を充実させる。
- 学力向上には、家庭教育も重要であることを呼びかけ、学校と家庭とが両輪となって取り組むよう働き掛ける。
- 安心感を持たせる家庭環境づくりや非認知能力（協調性、自制心、やり抜く力等）向上の必要性等について情報発信し、家庭の教育力を高めるよう働き掛ける。

(3) 幼児教育の支援

- 幼稚園と保育園及び小学校（低学年）間の連携と相互理解を深めながら、子育て支援体制づくりを推進し、幼・保・小連携推進委員会の一層の充実を図る。
- アプローチカリキュラム及びスタートカリキュラムを見直し、その活用を図り、保・幼・小相互の円滑な接続を図る。

(4) いじめ等防止対策の推進

- 「白石市いじめ防止基本方針」を徹底し、いじめの未然防止や問題行動の早期発見と早期対応に努めるとともに、児童・生徒の活動をとおして、いじめ根絶の意識を高める。
- 「白石市いじめ防止大会」で採択された、「いじめゼロ運動」（毎月10日）をとおして、いじめの未然防止やいじめ根絶の推進を図る。
- 幼児期における「いじめ」態様の早期把握に努め、適切な対応を図る。

(5) 安全教育の徹底

- 学校・家庭・地域が連携し、防犯、防災、交通安全等の意識を高めるとともに、危険箇所や通学路などの安全点検を組織的、計画的に行う。特に東日本大震災を教訓とし災害時の対応等、防災教育の充実を図り、実効性のある防災体制づくりを行う。（「学校・地域防災連絡協議会」の活用）
- 登下校時の安全を図るため、スクールパトロール隊や通学路巡視員等と協力し、児童・生徒の安全確保の支援に努める。
- PSC（Police Student Cooperation）パトロールなどの取組を活かして、児童・生徒の地域安全への意識を高める。

4 学校力向上を図る研修の充実

(1) 「学校力」向上を図る研修の充実

- 管理職の自覚と覚悟を促し、児童・生徒管理、教職員管理、教育課程管理、施設整備管理、学校事務管理を強化する。
- 各校の実態に応じて、意識的なOJTを実施する。
- 組織マネジメントや危機管理等の研修を深め、組織として機能する学校づくりに努める。

(2) 「教師力」向上を図る研修の充実

- 学校の実態に応じて、学校毎に「教職への情熱」「授業力」「学級経営力」「生徒指導力」「総合的な人間力」等のバランスのとれた研修に努める。
- 白石市の課題解決に向けた具体的な研修に努める。

(3) 情報教育研修の充実

- 教科のねらいを達成するために、ICT（情報や通信に関する技術の総称）を効果的に活用した指導方法についての研修の充実を図る。
- 情報活用能力と学力の関係を理解し、児童・生徒の知識・技術の確実な定着とともに、思考力・判断力・表現力を高めるための研修の充実を図る。
- 校務用コンピュータを活用した校務の効率化を進めるとともに、情報管理の徹底を図る。
- 1人1台端末等を使用した授業づくりのため、ICT支援員を有効に活用して、教員の資質向上を図る。

(4) 心身の健康管理

- 市民の期待と信頼に応え、創意と活力に満ちた教育活動が展開できるよう、文部科学省報告の「学校現場における業務改善のためのガイドライン」及び「学校現場における業務の適正化に向けて」を活用し、教職員の健康増進と福利厚生に努める。

社会教育の充実

1 社会教育推進体制の充実

(1) 市民の生涯の成長を促す社会教育の推進

- 公民館等の社会教育施設を拠点に、いつでも誰でも気軽に集い学び合うことや、個人の自己実現に向けた学習を支援する。
- 各種団体や地域住民等との連携強化を図り、市民の学習成果が地域等で生かせるような場のコーディネートを行う。
- 人口減少や少子高齢化の中でも、地域が話し合いと学び合いを重ねてより良い地域づくりを目指す力の向上を目指す。
- コロナ禍などにおける新たな学習機会として、様々な世代がリモートで繋がる機会や、そのためのスキルを学ぶ機会を設ける。

(2) 地区公民館の社会教育の推進

- 指定管理者制度により地域主導で運営されている地区公民館においても、市民の生涯を通じた成長への要求に応えられるよう、地域の特色を生かした公民館事業や社会教育の推進、共同学習を支援する。

- 公民館職員としての専門スキルの向上を支援するため、研修機会の確保、情報提供、地区公民館同士の定期的な情報交換の場を設ける。
- 市職員が研修会等に積極的に参加するなどして専門スキルを高め、また、地域に出向いて地域の特性や強みを理解しながら、地区公民館事業運営への指導・助言を行う。

(3) 地域学校協働活動の推進

- 地域学校協働本部を中心に、地域学校協働活動推進員、協働教育担当者、地域の方々などを対象にした研修会の開催や情報共有の機会を設け、活動への理解の促進と家庭・地域・学校が丸となって取り組みの充実を図る。
- 学校支援を通して、充実した学校教育を支援する。
- 放課後子ども教室を実施し、子どもたちの安全・安心な放課後の居場所の確保と異年齢交流による子どもの自主性と創造性を育む。
- 地域学校協働活動の取り組みを通して、地域住民や各種団体の主体性や自主性を育み、地域全体の教育力の向上と地域の活性化を図る。
- 家庭教育支援チームなどと連携し、宮城県版「親の学びのプログラム」を活用した出前講座の実施等による家庭教育事業を推進し、全ての親が安心して子育てや家庭教育が行えるように支援する。

(4) 青少年活動の推進

- 社会体験・自然体験・世代間交流を取り入れた充実したプログラムによるわんぱく教室を開催することにより、子どもたちの健全な育成と、ジュニア・リーダーの加入に繋げる。
- 次世代を担う青少年がたくましく思いやりのある人間に成長することを支援し、将来の担い手として、地域をつくる社会の一員になることを目指して、ジュニア・リーダーの育成と活用を推進する。
- 未来を担う子どもたちが、ふるさと「白石」に誇りと愛着の醸成ができるよう、楽しみながら地域に興味や関心が持てる機会の拡充に努める。

(5) 読書活動の推進

- 家庭・学校・地域・図書館等が連携しながら、児童・生徒が読書に親しむ機運を高めるとともに、読書をとおして心豊かな生活ができるように施策や環境の整備に努める。

2 文化芸術活動の振興と歴史遺産・伝統文化の継承・活用体制の充実

(1) 文化芸術活動の推進

- 地域の歴史・風土等を反映した個性豊かなまちづくりを推進するため、市民の多様な文化芸術活動や普及活動を支援する。
- 優れた文化芸術に触れる機会を確保し、古典芸能伝承の館碧水園など文化施設の積極的活用を推進する。

(2) 歴史遺産・伝統文化の継承と活用の推進

- 歴史遺産・伝統文化の散逸と滅失を防ぎ、広く市民の理解を得るよう啓発するため、資料を記録化し、各種媒体を用いて情報発信をする。
- 歴史遺産や伝統文化を展示・収集・保管する博物館の早期建設に向け、資料の所在調査や普及活動を実施する。
- 他の機関・団体等と連携しながら、歴史遺産等の価値を理解し、魅力を発信する人材を育成する。

3 生涯にわたるスポーツ活動の推進

(1) 生涯スポーツの推進

○いつまでも健康で明るく活力に満ちた生活を送ることができる「市民総スポーツ社会」の実現に向けて、「だれでも・いつでも・どこでも・いつまでも」気軽にスポーツを楽しむことができるスポーツ環境の充実に努める。

○スポーツ推進委員や学校体育と連携し、各種大会やスポーツ教室等の開催を通じ、地域や学校に根ざしたコミュニティスポーツを積極的に推進し、市民の健康増進と体力・運動能力の向上を図る。

(2) 総合型地域スポーツクラブの創設

○地域住民のスポーツ活動をささえ、スポーツを通じた地域コミュニティを構築するための活動拠点となる「総合型地域スポーツクラブ」の創設を目指し、検討を行う。

(3) スポーツ団体及び指導者の育成強化とスポーツ人口の拡大

○スポーツ協会やスポーツ少年団を中心とするスポーツ団体及び指導者の育成強化に努め、スポーツ人口の拡大を図る。

教育環境の整備

1 施設設備や教員等の充実と効果的な活用

(1) 施設設備の整備

○安全な施設設備の整備を図る。

(2) 施設設備の適正管理

○さまざまな災害に備えた施設設備の充実に努める。

○環境負荷の軽減に配慮した施設設備の適正な管理を図る。

(3) 子どもの特性に合わせた教育環境の整備

○ICT機器の利活用のための教育環境の整備を図る。

○トイレの洋式化率向上を目指す。

○障がいのある児童・生徒の実態を考慮した施設・設備の整備を図る。

(4) 緑化・美化運動による教育環境の整備

○各学校の環境を活かした個性ある緑化・美化による教育環境の整備促進を図る。

2 図書館の充実

○郷土資料と行政資料の収集に努め、市民の郷土研究等に資する。

○学校図書館との連携を深め、図書館サービスの効果的な活用を推進する。

○「第三次白石市子ども読書活動推進計画」を実践する。

3 危機管理体制の強化

(1) 危機管理体制の強化と安全教育の徹底

- 東日本大震災や令和元年東日本台風を教訓として地域の実情に沿って見直した学校安全マニュアルにより、防災教育を強化する。
- 不審者侵入や自然災害等に対応した児童・生徒の安全確保と個人情報管理等の危機管理体制の強化を図る。
- 各学校の状況に応じた避難訓練と日常的な指導により、児童・生徒の危機予測能力及び危機回避能力を養う。
- 「しろいし安心メール」を活用し、児童・生徒の安全や安心に努める。

(2) 情報教育に係る設備等の整備充実

- 学校コンピュータ管理基準の徹底及び個人情報の管理に努める。
- 1人1台端末、教師用端末及び関連機器について、白石市立小中学校情報セキュリティ対策基準に基づいた保管及び管理を徹底する。
- 学校ホームページの積極的な運用を図り、地域及び家庭に学校の取り組みや子どもたちの様子について伝えるよう努める。

基本事業	教育環境の整備	担当課	学校管理課施設係
事業名	学校施設環境整備事業		
重点施策 (白石市の教育より)	1 施設設備や教具等の充実と効果的な活用		
事業の目的・目標	より良い環境で教育を受けることができるよう、学校施設及び設備の適切な維持管理を行い教育環境の充実を図る。		
1. 令和3年度予算額	10,813千円	2. 令和2年度決算額	14,441千円
3. 令和3年度の事業内容	<p>○児童生徒の安全安心を最優先に考え、施設小・中学校及び幼稚園の定期的な保守点検及び修繕等により、維持管理を行う。 (当初予算計上の資料として、各学校、幼稚園に前年度夏に施設の修繕要望調査を行っている。限られた財源であるので、必要性・緊急性を判断しながら業者から見積書を徴収し、当初予算に計上している。また、随時発生する修繕要望についても、必要性・緊急性を勘案しながら、補正予算により対応している。)</p> <p>○令和3年4月27日に発生した白石第一小学校防球ネット支柱折損死傷事故を受けて、再発防止に取り組む。</p> <p>○トイレの洋式化率の向上を目指す。</p>		
4. 事業の実績	<p>○当初予算(修繕費)にて10件の修繕を行い、補正予算により必要性・緊急性などを勘案して90件修繕を行った。また、その他、簡易な修繕は、各学校に配当している予算で対応した。</p> <p>○白石第一小学校防球ネット支柱折損死傷事故を受けて、速やかに教育委員会事務局職員と市の技術職員とともに各学校施設の緊急点検を実施し、事故再発防止に取り組んだ。また、各学校でよりよい施設の安全点検が実施できるよう、宮城県白石工業高等学校の協力を得て、各学校の管理職及び安全管理担当者等を対象とし「学校施設等安全点検講習会」を開催した。</p> <p>○トイレの洋式化については、小学校3校で3基、中学校1校で3基、合計4校で6基を改修した。</p>		
5. 事業の成果・課題等	<p>【成果】</p> <p>○必要性・緊急性を勘案しての令和3年度当初予算及び補正予算による修繕については、全て完了することができた。</p> <p>○学校施設等安全点検講習会により、教職員が安全点検方法について適切かつ具体的な知識を身に付け、各学校における安全点検の充実を図った。</p> <p>○トイレの洋式化は、計画どおりに改修し、小中学校の総数321基中186基の洋式化が完了し、洋式化率は57.9%となった(令和2年度56.0%)。</p> <p>【課題】</p> <p>施設設備の経年劣化による老朽化が進んでいる。屋根の雨漏りや水道管の漏水、設備機器などの故障が発生した場合、出来る限り速やかに対応はしているが、予防的な修繕にまで手が回らない。急激に少子化が進んでいる現状を踏まえ、今後の学校教育、保育について検討段階にあるが、児童生徒の安全安心を最優先に考え、「白石市学校教育施設個別施設計画(令和3年3月策定)」を考慮しつつ施設の維持管理や長寿命化を図って行く必要がある。</p>		
6. 内部評価	B	A	目標を上回って達成した
B		目標をほぼ達成した	
C		目標をやや下回った	
D		目標を下回った	
7. 外部評価	<p>限られた予算の中で、緊急性を考慮して修繕を行っているのがよく分かりました。また、学校安全という子どもたちの安全安心を守るという意味では、自助も共助も非常に大切だと思います。学校の安全点検に学校職員以外の専門的知識を有した専門家の視点を入れた点検やPTAや児童生徒が学校の安全点検に加わっていることは、素晴らしい取り組みであり、大いに評価できます。特に児童生徒が将来的に自己管理能力を養ううえで大きな糧となる取り組みであると思うので、今後も学校安全点検が計画的、継続的に行われることを期待します。</p>		

基本事業	学校教育の充実	担当課	学校管理課
事業名	学力向上プロジェクト事業		
重点施策 (白石市の教育より)	創意ある教育課程の編成と実施による「特色ある学校づくり」の推進 (3)学習指導の充実		
事業の目的・目標	<p>○学力向上を図り、本市の将来を担う子どもたちの「生きる力」を高めることを目指す。</p> <p>・「学力向上マネジメント支援事業」に則り、児童・生徒の学力の向上を図る。</p> <p>・学力・学習状況調査等を踏まえ、その課題を明確にして学習指導に生かす。</p>		
1. 令和3年度予算額	10.606千円	2. 令和2年度決算額	10.415千円
3. 令和3年度の事業内容	市独自の学力調査を実施するほか、令和元年度から3年間にわたり宮城県の「学力向上マネジメント支援事業」を受託し、各種の取組を踏まえた学力向上におけるPDCAサイクルを確立させる。		
4. 事業の実績	【白石市学力調査の実施】 埼玉県との共同実施による白石市学力・学習状況調査(1回目)は、予定通り4月に実施した。12月には標準学力調査を小・中学校全学年において実施した。		
	【教員研修会の実施】 5月11日:学力向上に係る管理職研修会 8月27日:学力向上推進委員研修会 9月22日:白石市教科指導におけるICT研修会 11月4日:白石市学力向上研修会①(管理職対象), ②(初任者層対象) 11月17日:白石市教科指導におけるICT活用研修会		
	【各種検定補助, 中学校校内実力テスト実施に対する補助】 ・漢字検定:2回(のべ476人), 数学検定:2回(のべ295人) ・中学校実力テスト(1年:2回, 2年:3回, 3年:5回)		
5. 事業の成果・課題等	<p>【成果】</p> <p>・年2回の学力調査の結果を活用することで、学力の伸びと非認知能力の変容を基に、授業改善及び個に応じた指導の充実につなげることができた。また、結果を踏まえた各校での実践の改善授業検証及び児童生徒一人一人の「つまずき解消」の手立ての確実な構築・実施など、学力向上におけるR-PDCAサイクルが確立された。(教師意識, 学力向上推進委員会議)</p> <p>・令和3年度は新たに教職員向けのICT活用研修を実施し、授業改善に向けた教師の指導力向上が図られた。また、年度当初に学力向上に係る管理職研修の実施により、全市内小中学校が共通理解のもと取組が推進されたことは学力向上の一要因と考える。</p> <p>・各種検定に積極的に参加する児童生徒が回を重ねるごとに増加したことは、学びへの意欲, 挑戦意欲の向上と捉えられる。また、保護者の経済的負担の軽減にもつながるものであった。</p> <p>【課題】</p> <p>・令和2年度(中学校は令和3年度)より完全実施となった学習指導要領を踏まえた授業を一層展開していくことが必要であり、これまでの授業の在り方の転換を図ることを主たる課題・改善としていく。</p> <p>・学力向上に相関すると示されている非認知能力面の対策にも目を向け、児童生徒の意識, 生活習慣等の実態を基に向上策・改善策を構築し確実に実施していく。</p>		
6. 内部評価	B	A	目標を上回って達成した
		B	目標をほぼ達成した
		C	目標をやや下回った
		D	目標を下回った
7. 外部評価	<p>3年間の学力向上プロジェクトをそれぞれの学校が一生懸命取り組んでいたのは、日頃から感じており、この実績からもその成果がよく現れていると感じます。また、子どもたちのために各種検定に補助していることも評価でき、ぜひ、今後も継続して、意欲ある子どもたちを更に増やしていければと思います。</p> <p>白石市学力向上プロジェクトの取り組みは、他市町の学力向上事業の目標となり、先進モデルとなっており、白石に追いつけ、白石のように頑張ろうと他の市町も考えているようです。</p> <p>白石市は学力向上のPDCAが回っていることにとっても大きな意義があるとともに、非認知能力の自己効力感に着目し、その点に力を入れたことが今回の学力向上に繋がり、素晴らしい取り組みで非常に評価できるものであると感じています。</p> <p>この3年間は下地づくりで、ここから更に学力が上がっていくのだと思っています。この3年間で確立したR-PDCAサイクルを基に、今後の白石市の子どもたちの更なる学力向上に大変期待しております。</p> <p>今後は、家庭をも巻き込み、非認知能力の育成に更に力をいれてほしいと思っています。</p>		

基本事業	学校教育の充実	担当課	学校管理課
事業名	国際理解教育推進事業		
重点施策 (白石市の教育より)	創意ある教育課程の編成と実施による「特色ある学校づくり」の推進		
事業の目的・目標	児童生徒に国際的な視野と感覚及び英語による実践的コミュニケーション力を身に付けさせる。		
1. 令和3年度予算額	32,618千円	2. 令和2年度決算額	24,373千円
3. 令和3年度の事業内容	令和3年度より文部科学省の教育課程特例校(通称:英語特区)の指定を受け、特別な教育課程の編成を行い、小学校低学年での外国語活動及び中学校でのコミュニケーションを重視した活動である「しろいしイングリッシュ」を実施した。JETプログラムで最後まで残っていた2名のALTは7月で退任し、8月以降は派遣会社5名・市直接雇用1名の6名体制で市内全小・中学校及び幼稚園・保育園(市立・私立)にALTを派遣し、外国語・国際理解教育の強化を図った。		
4. 事業の実績	各学校のALT年間配置日数【令和2年度】 白一小88.5 白二小109 越河小49 大平小38 大鷹沢小31 白川小35.5 福岡小35 深谷小40 小原小中50 白石中187 福岡中74 東中188 合計925 ※この他、保育園・幼稚園に年3日を上限として配置。 ※令和2年度は、休校の影響により5月下旬～3月の日数		
	各学校のALT年間配置日数(指導時数)【令和3年度】 白一小152(469) 白二小138(524) 越河小41(220) 大平小73(217) 大鷹沢小82(270) 白川小65(197) 福岡小49(213) 深谷小49(190) 小原小中76(244) 白石中196(367) 福岡中106(271) 東中206(799) 第二幼19(38) 私立幼稚園・(市立・私立)保育園22(24) 合計1,274(4,043)		
5. 事業の成果・課題等	<p>【成果】 ALTを1名増員し、6名体制で学校等への派遣を実施したことにより、各校に令和2年度を上回る配置が可能となり、教育課程特例校として、ALTを授業や学校行事等で効果的に活用する機会を増やすことができた。また、幼稚園や保育園へのALT派遣も積極的に実施し、小学校就学前からの途切れない英語教育の推進を図ることができた。このほか、ALT派遣会社の提案により、福岡中学校において海外の学校とのオンライン交流も行うなど、生きた英語を学ぶ機会の増加により異文化に対する理解を深めることにつながった。</p> <p>【課題】 既存の外国語活動に加えて、教育課程特例校としての取り組みをより一層推進するため、学校間の情報共有や、市教委・学校等・派遣会社との間の連携を更に強化するなど、外国語・国際理解教育の充実改善に向けた検討を今後も計画的に進めていく必要がある。</p>		
6. 内部評価	B	A	目標を上回って達成した
		B	目標をほぼ達成した
		C	目標をやや下回った
		D	目標を下回った
7. 外部評価	<p>コロナ禍で、国際交流や英語学習に制限があるなか、ALTの増員や文科省の英語特区の指定を受け、国際理解や英語教育の充実に力を入れていることがよく分かり、評価できる点であると思います。</p> <p>特に、オンラインによる海外の学校との交流などは、ICTの活用にも繋がっていくので、ぜひ積極的に取り入れるように教育委員会からも声掛けをしていただきたいと思います。</p> <p>また幼稚園や保育園でも、ALTから生きた英語を学ぶ機会が増えているので、ぜひ遊びの中で楽しく取り組めるようにいただきたいと思います。</p> <p>このコミュニケーションスキルの向上に特化した「しろいしイングリッシュ」は、児童生徒が異文化を肌で感じるということが大変大事です。子どもたちにとっては、ALTそのものや全く違う言葉を駆使する同世代の子どもたちと交流することに意味があり、それらを生で味わうことが英語力向上の方法そのものであると感じます。</p> <p>今後この英語学習の成果が現れ、幼稚園から高校まで英語が使える子どもたちが増えていくことを期待します。</p>		

基本事業	社会教育の充実	担当課	生涯学習課生涯学習係
事業名	地域学校協働活動推進事業		
重点施策 (白石市の教育より)	協働教育の推進 2-(6)-①②		
事業の目的・目標	地域と学校が連携、協働して、子ども達の成長を支え、地域を創造する活動を推進する。		
1. 令和3年度予算額	4,980千円	2. 令和2年度決算額	4,452千円
3. 令和3年度の事業内容	<p>家庭教育支援活動・学校教育支援活動・地域活動及び放課後子ども教室を中心とした事業の推進を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○家庭教育支援 <ul style="list-style-type: none"> ・市主催「親の学びプログラム」出前講座の開催 ○学校教育支援 <ul style="list-style-type: none"> ・学校支援ボランティア派遣・職場体験学習の支援・各種研修会の開催・広報誌の発行 ○地域活動支援 <ul style="list-style-type: none"> ・体験活動「わんぱく教室」の開催・白石市生涯学習フェスティバル事業の実施・「家庭の日」推進の取り組み・ジュニアリーダー研修及び派遣事業 ○放課後子ども教室 <ul style="list-style-type: none"> ・越河小学校・第一小学校・第二小学校で実施、第一小及び第二小については平成30年度より開設、児童クラブとの一体型及び連携型で運営 		
4. 事業の実績	<p>・ボランティア派遣学校数：小学校及び中学校計13校(10校)、市内幼稚園1園(市内幼稚園2園)</p> <p>・年間活動日数：第一小213日(2日)、第二小221日(206日)、越河小39日(44日)、大平小12日(15日)、大鷹沢小216日(221日)、白川小5日(1日)、福岡小243日(197日)、深谷小30日(18日)、小原小47日(41日)、白石中29日(0日)、福岡中38日(0日)、小原中13日(19日)、東中19日(0日)、第二幼稚園8日(5日)</p> <p>・家庭教育学習講座の実施数：1校(6校)</p> <p>※()の数値は昨年度</p>		
5. 事業の成果・課題等	<p>【成果】</p> <p>標記事業は平成24年度より国の補助事業である「協働教育プラットフォーム事業」として5年間実施し、平成30年度より「地域学校協働活動」として国の補助事業を活用し実施している。過去10年間の実績を踏まえ、地域活動支援では事業の周知も計られ参加者が増えている。学校教育支援ではまだまだボランティアの人手は必要ではあるが、校外の活動へのボランティア派遣依頼も増え、多くの場面で活動していただいております。放課後子ども教室・家庭教育支援は継続して実施できた。</p> <p>【課題】</p> <p>今後、地域まちづくりの核として活動しているまちづくり協議会と協力して、地域住民と子ども達とその保護者を結びつける活動を伝統文化の継承等の事業と結びつける等の工夫をして事業の実施を行い、地域コミュニティの再構築を目指しながら今後も進めていきたい。</p>		
6. 内部評価	B	A	目標を上回って達成した
		B	目標をほぼ達成した
		C	目標をやや下回った
		D	目標を下回った
7. 外部評価	<p>学校経営は、地域の協力なしには難しいと思います。そういった面からも地域の人材を学校教育に繋げるように、教育委員会からも学校に働きかけてほしい。また、コロナ禍によりPTAの活動も滞っているので、PTA活動も支えていただきたいと思います。</p> <p>事業内容にある三つの大きな柱、家庭教育、学校教育、地域活動がきちんと支え合うことが大切であると思っています。その中でも、校外活動ボランティア派遣は学校でも非常にありがたいし、児童生徒が安全に活動するための大きな支援となっていると思うので、とてもいい取り組みで継続してほしいと思っています。</p> <p>さらに、放課後子ども教室が増えていることはすばらしいことで、保護者が安心して子どもを預けられる場所を提供するととてもいい取り組みであると感じました。</p>		

基本事業	社会教育の充実	担当課	生涯学習課文化財係
事業名	史跡環境整備事業、市内遺跡発掘調査等事業		
重点施策 (白石市の教育より)	芸術文化活動の振興と文化財保護思想の普及及び保護体制の充実 2-(7)-②		
事業の目的・目標	<p>市内に所在する文化財に説明板・標柱を設置し、地域の方や来訪者にその存在を周知するとともに、地域の文化財に対する理解を深めることを目的とする。</p> <p>遺跡の発掘調査を実施することによりその状況を把握し、各種開発事業による遺跡の破壊や滅失を防ぎ、将来へ継承する。</p>		
1. 令和3年度予算額	18,856千円	2. 令和2年度決算額	6,487千円
3. 令和3年度の事業内容	<p>史跡環境整備事業では、遺跡が所在していることを分かりやすくするために新たに標柱を設置したほか、風雨にさらされ文字の判読が難しくなった説明板・標柱を塗り替え、更新した。</p> <p>市内遺跡発掘調査等事業では、住宅建築や太陽光発電設備設置事業などの予定地内において遺跡の有無を確認するための発掘調査を実施した。</p>		
4. 事業の実績	<p>(令和3年度)文化財説明板および標柱の新設・塗り替え10件、発掘調査23件 (令和2年度)文化財説明板および標柱の新設・塗り替え5件、発掘調査17件</p>		
5. 事業の成果・課題等	<p>【成果】 史跡環境整備事業においては、標柱新設・説明板更新により身近な地域に様々な文化遺産があることを周知することができ、その理解促進に役立った。</p> <p>市内遺跡発掘調査等事業では、発掘調査によって遺跡の状態が把握され、開発事業者と遺跡保護に向けて円滑な調整ができた。また、開発事業による遺跡への影響を最小限に留めることができた。</p> <p>特筆すべき点としては、本市が重要遺跡の内容解明のために発掘調査を実施し、文化財行政上貴重な取り組みとなった。</p> <p>【課題】 市内に所在する文化財説明板は約300箇所あり、昭和50年代に設置した説明板は経年劣化し、定期的な塗り替え・建て替えが必要である。また、看板が設置されている文化財そのものの状況把握も課題である。</p> <p>市内遺跡発掘調査等事業は、令和3年度以降に大規模開発事業が複数予定されているが、対応できる職員の十分な確保が大きな課題である。</p>		
6. 内部評価	B	A	目標を上回って達成した
B		目標をほぼ達成した	
C		目標をやや下回った	
D		目標を下回った	
7. 外部評価	<p>かなりたくさん文化財があるので、その看板等を全部塗り替えたり、説明版を付けるというのはなかなか難しいと思います。最近ではスマートホンの普及が進み、スマートホンをかざすと説明ができてきたりするシステムもあるので、観光客や地元住民に文化財や史跡の内容が分かりやすく、もっと身近なものになるよう、標柱作成の際にQRコードなどを入れ、スマートホンを活用して説明されるような仕組みを取り入れることも検討していただければと思います。</p>		

基本事業	社会教育の充実	担当課	生涯学習課スポーツ振興係
事業名	生涯スポーツ推進事業		
重点施策 (白石市の教育より)	3 生涯にわたるスポーツ活動の推進		
事業の目的・目標	いつまでも健康で明るく活力に満ちた生活を送ることができる「市民総スポーツ社会」の実現に向けて、「だれでも・いつでも・どこでも・いつまでも」気軽にスポーツを楽しむことができるスポーツ環境の充実を図る。		
1. 令和3年度予算額	3, 153千円	2. 令和2年度決算額	2, 074千円
3. 令和3年度の事業内容	<p>○誰でも、気軽に楽しむことができる「ニュースポーツ」の普及促進を図り、参加者相互のコミュニケーション及び体力づくりを図ることを目的に、学校体育や地区公民館、社会福祉協議会などと連携し、年間を通じニュースポーツ移動教室を開催した。</p> <p>○スポーツ推進委員と連携し、いきいきEnjoy教室を開催し、ニュースポーツを通じて体を動かす楽しさを見つけるとともに会員相互の親睦交流を図った。</p> <p>○白石市スポーツセンター管理運営業務(白石市スポーツ協会事業)及び学校施設開放業務</p>		
4. 事業の実績	<p>○ニュースポーツ移動教室 (R2実績)計 9回開催(うち小学校7回、地区公民館等2回)、参加者(延べ)423名 (R3実績)計11回開催(うち小学校7回、地区公民館等4回)、参加者(延べ)598名</p> <p>○いきいきEnjoy教室 (R2実績)計22回開催 参加者(延べ)565名 (R3実績)計24回開催 参加者(延べ)796名</p>		
5. 事業の成果・課題等	<p>【成果】コロナ禍ではあったが、感染防止対策を徹底し、ニュースポーツ移動教室の開催により、スポーツが苦手な子どもたちにとっても気軽に身体を動かすことの楽しさを知ってもらった。また、高齢者にとっても無理なく気軽に楽しむことが出来るスポーツであることから、事業目的である参加者相互のコミュニケーション及び体力づくりに資することが出来たと思われる。</p> <p>【課題】少子高齢化時代となり、スポーツをする子どもの数が減少、スポーツ少年団(チーム)の存続も危ぶまれてきている。また、コロナ禍でもあり、感染防止対策を行いながらになるが、この「ニュースポーツ移動教室」をきっかけとして多くの子どもたちにスポーツに対する興味を持ってもらうため、引き続き学校体育と連携して取り組んでいきたい。また、地域にとっても、コミュニティづくりの一環として、また健康寿命の延伸・医療費の抑制という効果も期待できることから、引き続きいきいきEnjoy教室や地区公民館や社会福祉協議会と連携してニュースポーツの普及促進に努めていきたい。</p>		
6. 内部評価	B	A	目標を上回って達成した
		B	目標をほぼ達成した
		C	目標をやや下回った
		D	目標を下回った
7. 外部評価	<p>スポーツ少年団などに入っている子ども、片やゲームばかりして外にも出ず夜遅くまでゲームばかりしている子どももいて、子どもたちの体力の二極化が激しくなっているという話も聞かれます。学校だけでは体力を戻すのに大変なので、この事業のように学校に出向いて子どもたちに運動の場を少しでも多く提供しようとしているところは非常に評価できます。子どもたちの体力の差を少しでも縮められるよう今後もこの活動を続けてほしいと思います。</p> <p>また、コロナ禍にあっても、事業の実績が伸びているのは素晴らしいことです。万全の感染対策をして子どもたちに体を動かすことの楽しさや汗をかく気持ちよさを小さいころから味わわせるには、この取り組みはとて大切であり、体力と学力は相関すると思うので、引き続き実施してほしいと思います。</p> <p>学校体育と連携して取り組みたいとあるのが、とてもよいことだと思いました。</p>		

基本事業	社会教育の充実	担当課	生涯学習課総務係
事業名	中央公民館利用事業(貸館業務)		
重点施策 (白石市の教育より)	1 社会教育推進体制の充実		
事業の目的・目標	市民の自主的、主体的な学習活動の推進に努める。		
1. 令和3年度予算額	千円	2. 令和2年度決算額	千円
3. 令和3年度の 事業内容	中央公民館が地域の活動拠点として活発に利用されるよう各種団体と地域社会がもつ教育機能の有機的な連携を図り、学習機会や学習情報等の提供を行う。		
4. 事業の実績	<ul style="list-style-type: none"> ●利用回数:(R2)1,545回 (R3)1,562回 ●利用人数: (R2)18,591人(うち 主催事業1,953人、社会教育関係団体6,574人、その他10,064人) (R3)20,649人(うち 主催事業372人、社会教育関係団体11,800人、その他8,477人) 		
5. 事業の成果・ 課題等	<p>【成果】 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、利用定員の抑制措置や定期講座の実施回数変更などをしたものの、利用回数は対前年度比17回増(+1%)、利用人数は対前年度比2,058人増(+11%)となり、感染防止対策を徹底しながら、鋭意市民への学習機会や学習情報の提供に努めた。</p> <p>【課題】 引き続き生涯学習事業の推進や地域学習資源の発掘、活用の仕組みづくりを推進するとともに、自主的な学びへの支援を充実させ、中央公民館の利用促進に努めていく。</p>		
6. 内部評価	B	A	目標を上回って達成した
		B	目標をほぼ達成した
		C	目標をやや下回った
		D	目標を下回った
7. 外部評価	<p>中央公民館は、高齢者の活動の場としての印象が強く感じられます。最近では学校の部活動を減らしている傾向にあるので、ジュニアリーダーはじめ中高生をもっと中央公民館の活動に協力してもらえるような体制を構築できればよいのではないかと思います。</p> <p>また、学校活動の中で制作した書道や絵画等を学校が提供して、移動美術館のようなものを開催すると、子どもたちの利用が増えるのではないかと思いますので、そういった学校と連携した取り組みも検討して行ってほしいと思います。</p> <p>コロナ禍にありながら、利用者が微増ではあるが aumentando しているのが分かります。これは学習の機会を市民に提供するとともに、これまで情報提供を継続してきた賜物であると思っています。この取り組みに敬意を表します。</p>		

基本事業	学校教育の充実	担当課	学校給食センター																																					
事業名	学校給食運営事業																																							
重点施策 (白石市の教育より)	1-(5)学校給食の充実と食育の推進																																							
事業の目的・目標	学校給食を通して食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身につけさせる。																																							
1. 令和3年度予算額	269,476千円	2. 令和2年度決算額	255,396千円																																					
3. 令和3年度の 事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・学校給食の充実を図り、安全で安心な給食を提供する。 ・学校給食残食調査を実施する。 ・白石第二幼稚園への給食提供を開始する。 ・実証実験に伴い夏季冬季休業日の一部が登校日となり給食提供を実施する。 																																							
4. 事業の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・児童・生徒が正しい食事のあり方や望ましい食生活を身に付け、自らの健康管理ができるように「給食一口メモ」や「給食図鑑」の給食指導資料を提供し支援した。 ・児童・生徒の給食の摂取状況を把握し、今後の献立作成や給食指導の参考資料にするため学校給食残食調査(11/15～11/19)を実施した。 ・「令和の時代の新たな学校の在り方を探るための実証実験」で夏季冬季休業日の一部を授業日に振り替え登校日となったため給食提供を実施した。 																																							
5. 事業の成果・ 課題等	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「給食一口メモ」は、給食の時間に校内放送で読み上げお知らせしたり、担任が給食時に説明をしている。「給食図鑑」は、配膳場所等に掲示し子どもたちがいつでも見られるようにしている。 ・アレルギー対応食の給食を提供しているが、誤食の事故はなかった。 <table border="0"> <tr> <td>児童生徒数と年間提供食数</td> <td>小学校:</td> <td>1,384名</td> <td>258,992食</td> </tr> <tr> <td></td> <td>中学校:</td> <td>837名</td> <td>152,358食</td> </tr> <tr> <td></td> <td>幼稚園:</td> <td>36名</td> <td>438食</td> </tr> <tr> <td>うちアレルギー対応食提供の児童生徒数と年間提供食数</td> <td>小学校:</td> <td>3名</td> <td>559食</td> </tr> <tr> <td></td> <td>中学校:</td> <td>2名</td> <td>284食</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・残食調査による残食率〔市内平均〕 ※()内は令和2年度の数値 <table border="0"> <tr> <td>小学校:</td> <td>主食8.1%、主菜16.9%、副菜25.1%、食缶(汁物)13.5%、牛乳0.9%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(6.6%、17.2%、25.2%、14.8%、0.2%)</td> </tr> <tr> <td>中学校:</td> <td>主食12.3%、主菜12.9%、副菜23.8%、食缶(汁物)13.3%、牛乳5.5%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(9.3%、15.4%、24.9%、15.2%、4.6%)</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・実証実験実施校 <table border="0"> <tr> <td>小学校(6校実施):</td> <td>夏季4日、冬季1日 計5日</td> <td>※大鷹沢小、白川小は除く</td> </tr> <tr> <td>中学校(3校実施):</td> <td>夏季9日、冬季2日 計11日</td> <td></td> </tr> <tr> <td>小原小学校・小原中学校:</td> <td>夏季7日、冬季2日 計9日</td> <td></td> </tr> </table> <p>【課題】</p> <p>児童生徒が苦手意識を持つ献立についても食材の調理方法や味付け、また、組み合わせる食材を工夫し食べる機会を作ることで、成長に必要な栄養素の適切な摂取量を充足させていくことが肝要なことであると感じています。学校全体での指導や取り組みのみならず、家庭への働き掛けなど連携を深めていきたい。</p>			児童生徒数と年間提供食数	小学校:	1,384名	258,992食		中学校:	837名	152,358食		幼稚園:	36名	438食	うちアレルギー対応食提供の児童生徒数と年間提供食数	小学校:	3名	559食		中学校:	2名	284食	小学校:	主食8.1%、主菜16.9%、副菜25.1%、食缶(汁物)13.5%、牛乳0.9%		(6.6%、17.2%、25.2%、14.8%、0.2%)	中学校:	主食12.3%、主菜12.9%、副菜23.8%、食缶(汁物)13.3%、牛乳5.5%		(9.3%、15.4%、24.9%、15.2%、4.6%)	小学校(6校実施):	夏季4日、冬季1日 計5日	※大鷹沢小、白川小は除く	中学校(3校実施):	夏季9日、冬季2日 計11日		小原小学校・小原中学校:	夏季7日、冬季2日 計9日	
児童生徒数と年間提供食数	小学校:	1,384名	258,992食																																					
	中学校:	837名	152,358食																																					
	幼稚園:	36名	438食																																					
うちアレルギー対応食提供の児童生徒数と年間提供食数	小学校:	3名	559食																																					
	中学校:	2名	284食																																					
小学校:	主食8.1%、主菜16.9%、副菜25.1%、食缶(汁物)13.5%、牛乳0.9%																																							
	(6.6%、17.2%、25.2%、14.8%、0.2%)																																							
中学校:	主食12.3%、主菜12.9%、副菜23.8%、食缶(汁物)13.3%、牛乳5.5%																																							
	(9.3%、15.4%、24.9%、15.2%、4.6%)																																							
小学校(6校実施):	夏季4日、冬季1日 計5日	※大鷹沢小、白川小は除く																																						
中学校(3校実施):	夏季9日、冬季2日 計11日																																							
小原小学校・小原中学校:	夏季7日、冬季2日 計9日																																							
6. 内部評価	A	A	目標を上回って達成した																																					
		B	目標をほぼ達成した																																					
		C	目標をやや下回った																																					
		D	目標を下回った																																					
7. 外部評価	<p>残食調査を定期的に行うとともに、アレルギー対応にも非常に配慮していることがよく分かりました。こういうところが保護者の安心感につながっていくので、今後もぜひ続けてほしいと思います。</p> <p>また、地産地消の意味でも、ぜひ地場産品の給食への取り組みを継続していただければと思います。</p> <p>将来にわたって、「食」というのは、非常に大切なものだと思うので、食育の一環としてこの給食を提供することはとても意義あると思います。</p> <p>特に誤食事故がないということは当然のことながら、努力ときめ細やかな対応の表れであり、大いに評価される点であります。</p>																																							

基本事業	社会教育の充実・教育環境の整備	担当課	図書館
事業名	図書館等利活用事業		
重点施策 (白石市の教育より)	読書活動の推進(2-(5)-(2))・図書館の充実(3-(2)-(1),(2),(3),(4))		
事業の目的・目標	乳幼児から高齢者まですべての市民の生涯学習の場として、資料や情報を収集、提供し、「市民の役に立つ図書館」の実現に努める。		
1. 令和3年度予算額	30,357千円	2. 令和2年度決算額	29,573千円
3. 令和3年度の 事業内容	(1) 各分野を網羅した資料を収集、提供し、利用者の視点に立った書架の整備を進めたことで、市民の生涯学習活動を支援した。 (2) 令和2年度からのインターネット予約サービスに加え、令和3年10月から電子図書館を開設した。 (3) 移動図書館「こまくさ号」を運行し、学校と地域の読書活動を支援した。 (4) 図書館ボランティアの活動を推進し、市民協働により図書館運営の向上を図った。		
4. 事業の実績	(1) 貸出冊数は、一般書が54,194冊(+4,299冊)、児童書が46,420冊(+8,197冊)、視聴覚資料及び雑誌が7,018冊(+567冊)、合計107,587冊(+13,063冊)であり、貸出人数は24,206人(+3,074人)であった。 (2) コロナ禍ということもあり、令和3年1月からインターネットから予約できるサービスの開始〔予約数949件(+762件)〕に加え、令和3年10月から電子図書館を開設した。〔アクセス数:3,428回、延べ貸出冊数:2,719冊〕 (3) 市内16箇所のサービスポイントにおいて、5,199冊(+510冊)の図書を貸し出した。また、20箇所の配本所へ6,373冊(+20冊)の図書を配本した。 (4) 書架整理7人(+1人)、読み聞かせ17人(±0人)、図書館支援5人(+1人)のボランティアが登録し、延べ173回(+45回)の活動を行った。		
5. 事業の成果・ 課題等	【成果】 年間を通し、各分野から2,613冊(-1,309冊)の図書等を受け入れ、所蔵資料の充実を図った。また、ホームページ等を通して提供しているサービス内容の周知を積極的に行い、利用促進を図った。Webによる予約も一定程度定着してきた。また電子図書館の開設については、特に子供の読書時間の増加につながるものと期待できる。コロナ禍に苛まれながらも、対策の徹底、様々な工夫により、貸出冊数、貸出人数ともに昨年度実績を上回ることができた。		
	【課題】 コロナ禍の影響を大きく受けた令和2年度から比べれば、3年度は各数値は増加した結果が出ているが、より反復的なものもあると考えられる。慢心せず、なお一層ホームページ・図書館だよりの内容を充実を図るとともに、子どもの読書活動、生涯学習活動を促進するためにも、学校、関係各課及びボランティアとの連携をより強化し、引き続きコロナ対策を徹底し、資料の提供のみでなくレファレンス機能の充実など市民の利用しやすい図書館づくりに努めたい。		
6. 内部評価	A	A	目標を上回って達成した
		B	目標をほぼ達成した
		C	目標をやや下回った
		D	目標を下回った
7. 外部評価	電子図書館を開設したり、図書の貸し出しをインターネットからも予約できるシステムを導入したりと新しいことをどんどん取り入れているなど感じています。 今後はアンケートなどにより利用者のニーズを時々把握しながら、新刊を選定する際に役立てていただければありがたいと思います。 また、読み聞かせ事業に、地元に関わる本を読んであげて欲しいと思うので、そういった本も揃えたり対応をお願いします。 図書館の職員やボランティアの対応がとても暖かくて丁寧ですばらしいと感じています。やはり対応は非常に大事で、図書に対する多くの知見を持ち、専門家としてのプロ意識を感じさせる図書館にはよく行くし、そこが大事であると思っています。 また、やや雑誌の種類が少ないように感じるので、今後、雑誌のラインナップなども考えていただければと思います。		

基本事業	社会教育の充実・教育環境の整備	担当課	図書館
事業名	図書館文化事業		
重点施策 (白石市の教育より)	読書活動の推進(2-(5)-①)・図書館の充実(3-(2)-②,⑦)		
事業の目的・目標	幼少期から本に親しむことにより、豊かな心、たくましく生きる力をはぐくみ、成長とともに市民の文化意識の高揚を図る。		
1. 令和3年度予算額	— 千円	2. 令和2年度決算額	— 千円
3. 令和3年度の 事業内容	<p>(1) 6か月児ブックスタート 6か月児育児相談日に、読み聞かせボランティアの協力により絵本の読み聞かせを行い、絵本に触れるきっかけづくりを支援する。</p> <p>(2) おはなしひろば アテネ2階の絵本コーナーにおいて、読み聞かせボランティアの協力により絵本、紙芝居等の読み聞かせを行い、子ども読書活動を推進した。</p> <p>(3) 出前読み聞かせ 保育園、幼稚園及び学校等において、読み聞かせボランティアの協力により読み聞かせを行い、子どもの読書活動を推進した。</p>		
4. 事業の実績	<p>(1) 6か月児ブックスタート(6か月育児相談日に実施) 健診担当課と協議の上、中止とした</p> <p>(2) おはなしひろば 開催回数:21回 参加人数:大人 32人 子ども 117人 ボランティア 34人 (+8回) (-5人) (+59人) (+17人)</p> <p>(3) 出前読み聞かせ 開催回数:48回 参加人数:大人 157人 子ども 1,260人 ボランティア 78人 (+22回) (+93人) (+537人) (+28人)</p> <p>※(2)(3)は、新型コロナウイルス感染拡大防止の方針を受け、数回の中止のみで開催することができ前年比増となった。</p>		
5. 事業の成果・ 課題等	<p>【成果】 6ヶ月育児相談時に行う読み聞かせができない中、0.1.2歳児向けの読み聞かせを新たに開催した。また、読み聞かせボランティアの積極的な活動と、保育園・幼稚園・小学校など出前読み聞かせ先の読書推進に対する理解と協力連携を得て、幼児・児童が普段の生活の中で図書と触れる環境をつくるため、読書に触れる機会を数多く提供し、子ども読書活動を推進することができた。</p> <p>【課題】 おはなしひろばについて、感染拡大防止の観点から人数制限を設け、また、開催日が他の季節行事と重複しないような工夫と、興味・関心を引くような事業内容を検討しなければならない。また、読み聞かせを担うボランティアのネットワークを広げる機会を設け、活動の継続とボランティアの育成につなげる取組を検討する必要がある。さらに、学校との連携を強化し、各学校にあった学校図書室の機能充実を図らなければならない。</p>		
6. 内部評価	B	A	目標を上回って達成した
B		目標をほぼ達成した	
C		目標をやや下回った	
D		目標を下回った	
7. 外部評価	<p>おはなし広場や出前読み聞かせなどの活動は、学校としても非常にありがたいし、放課後児童クラブなどでも要望があれば対応していただけたらいいのではないかと思います。</p> <p>幼児期から絵本と親しんだり文字に親しんだりする習慣を付けるのは、非常に大切で、将来の学力向上にも繋がっていくと思うので、こういった機会を続けてほしいと思っています。</p> <p>また、コロナ禍であっても、おはなし広場や出前読み聞かせの活動を継続していることは大変素晴らしいと思います。読み聞かせは、こどもの相手意識を育む有効な手段であり、将来の学力向上にも繋がっていくと思うので、ぜひ、コロナ禍であっても継続してほしいと思います。</p>		